第 267 回 都市懇サロン レポート	まちづくり分野におけるソーシャル・インパクト・ボンドの活用 ～SIBによる前橋市アーバンデザイン推進事業～		
講師	前橋市都市計画部市街地整備課 副主幹 濱地 淳史 氏	開催日	2023年2月14日(火) 18：00～20：00
講師 プロフィール	2004 年前橋工科大学大学院工学研究科修了前橋市役所入職。建築技師として営繕・審査担当を経て 2015 年より現職。第２回先進的まちづくり大賞で国土交通大臣賞を受賞した前橋市アーバンデザインの策定及び前橋デザインコミッションの設立・運営などの一連の取り組みに、市の担当者として中心的な役割を担う。千葉県香取郡出身。		
お話の概要	■前橋市アーバンデザイン（将来ビジョンの策定） ・計画の考え方…民間主体（市民が自分毎として考えられる）の指針として策定 ・まちづくりの方向性…米国を参考。その土地ならではの特性を生かす街づくり ・４つのモデルＰＪ…地区全体ではなくエリアを絞ってＰＪを推進 ■前橋デザインコミッション（まちづくりの担い手） ・（一社）前橋デザインコミッション（以下ＭＤＣ）…会費等の民間資金のみで設立 ■馬場川通りＰＪ（アーバンデザイン・モデルプロジェクト） ・馬場川通りの空間再配置による利活用…「民間資金」で「民間団体」が整備 ・市・地元会・ＭＤＣによる３者で都市利便増進協定を締結、活用 ・庁内の隘路解消のため、民間開発地区の管理については市街地整備課に一元化 ■ソーシャル・インパクト・ボンド（以下ＳＩＢ）の導入（民間支援手法） ・ＳＩＢ導入のきっかけ…活力ある民間に対して市として何か出来ないか？ →成果連動型民間委託契約方式（以下ＰＦＳ）の活用を検討 →国交省よりまちづくり分野におけるＳＩＢ活用検討があり無事採択（全国初） ・成果指標内容は直接的に金銭増加に結び付かないが「歩行者通行量」に設定		
意見交換の概要	・ＳＩＢによる変動型報酬額において、達成度における成果連動 →必須条件支払以外に達成度に応じてインセンティブあり ・ＳＩＢ事業立上げ時の伴うハードル →前段としてＭＤＣ、太陽の会が組成されていたためスムーズな初動期であった ・馬場川通りＰＪを通しての気付き →民間発注による一連の流れの中で、市やコンサルの関わり方が通常と異なる ・アーバンデザイン策定時における市民キーマンの発掘 →受注者の地元コンサル及び市の情報を土台としてキーマンを発掘 ・その他 →他自治体でもＳＩＢ導入ケースは増加見込み、民間コンサルの知見は必須となり、積極的な提案を期待したい		
記録者のひとこと	超少子高齢化社会に伴い地方都市における財源確保は今後更に厳しくなる中で、ＳＩＢを導入による民間ノウハウを活用した本事業を参考に他自治体での活用も有効と思料。≪都市懇サロン運営部会 委員 記録者氏名 大泉 康博　記入≫		